

計算条件の見直しについて

第 5 回 WG で示した土砂移動予測の計算モデルを改良しました。計算モデルの改良点と計算結果の違いは以下のとおりです。

1. 計算モデルの改良点

改良点	前回 (2/2WG) 資料	今回資料
1) ウォッシュロードの代表粒径の見直し	0.1mm 以下をウォッシュロードとし、 0.1mm を代表粒径として計算を行った	0.1mm 以下をウォッシュロードとし、 0.038mm を代表粒径として計算を行った (再現計算、中小出水時の予測計算、大規模出水時の予測計算、全て見直し)
2) 大規模出水時における土砂移動予測計算の河道内貯留土砂の設定の見直し	河道内貯留土砂を無限大深 に設定した	河床上に河道内貯留土砂を置き、 元河床の材料と河道内貯留土砂の材料を区別 できるようにした

2. 計算結果の比較

1) 再現計算 (H6 初 ~ H11 末)

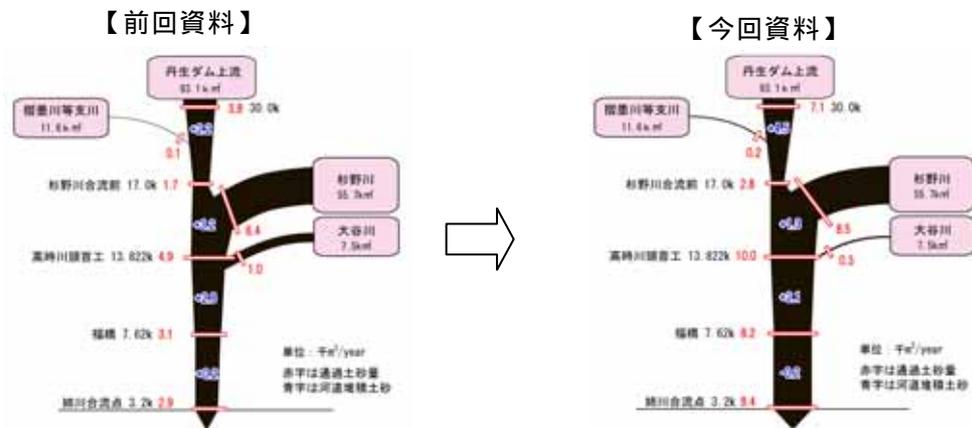


図-1 土砂動態マップの比較 (全流砂)

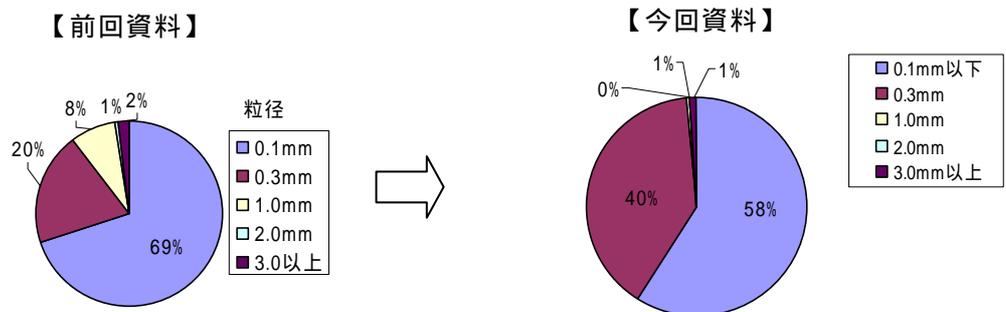


図-2 通過土砂量の粒径構成比 (福橋地点)

2) 中小出水時における土砂移動 (30年後の予測)

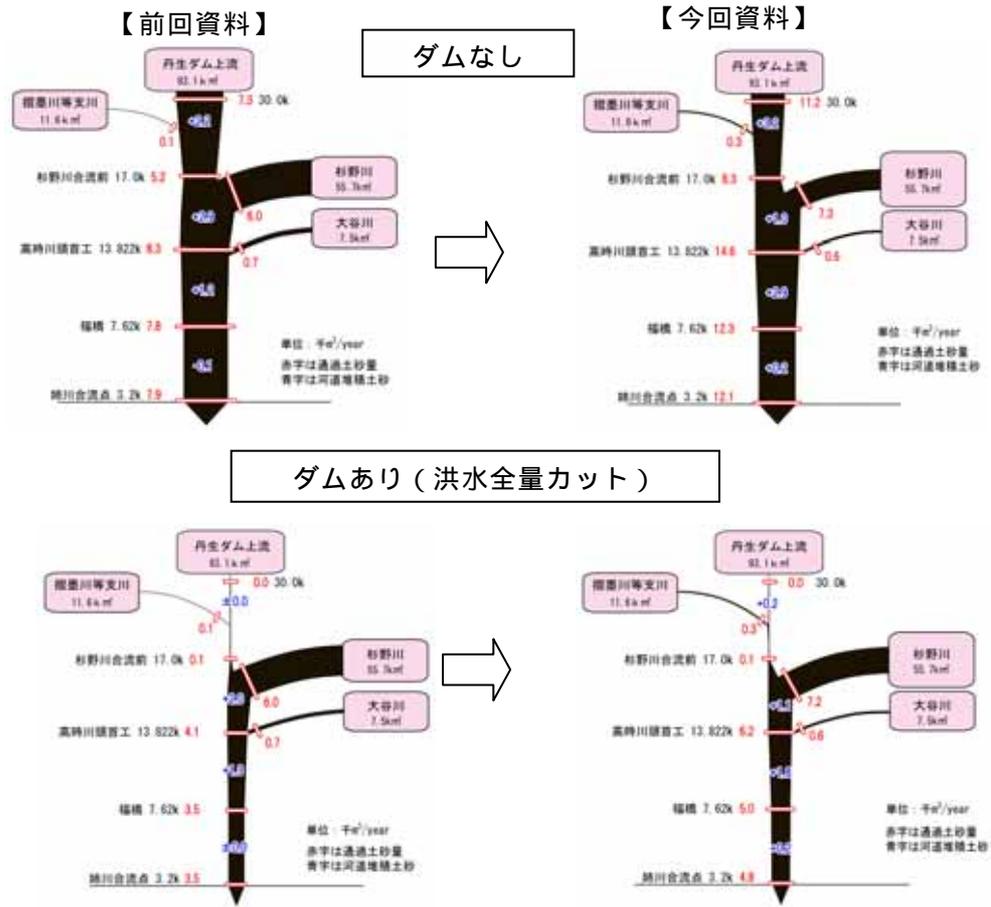


図-3 中小出水時における土砂動態マップの比較 (全流砂)

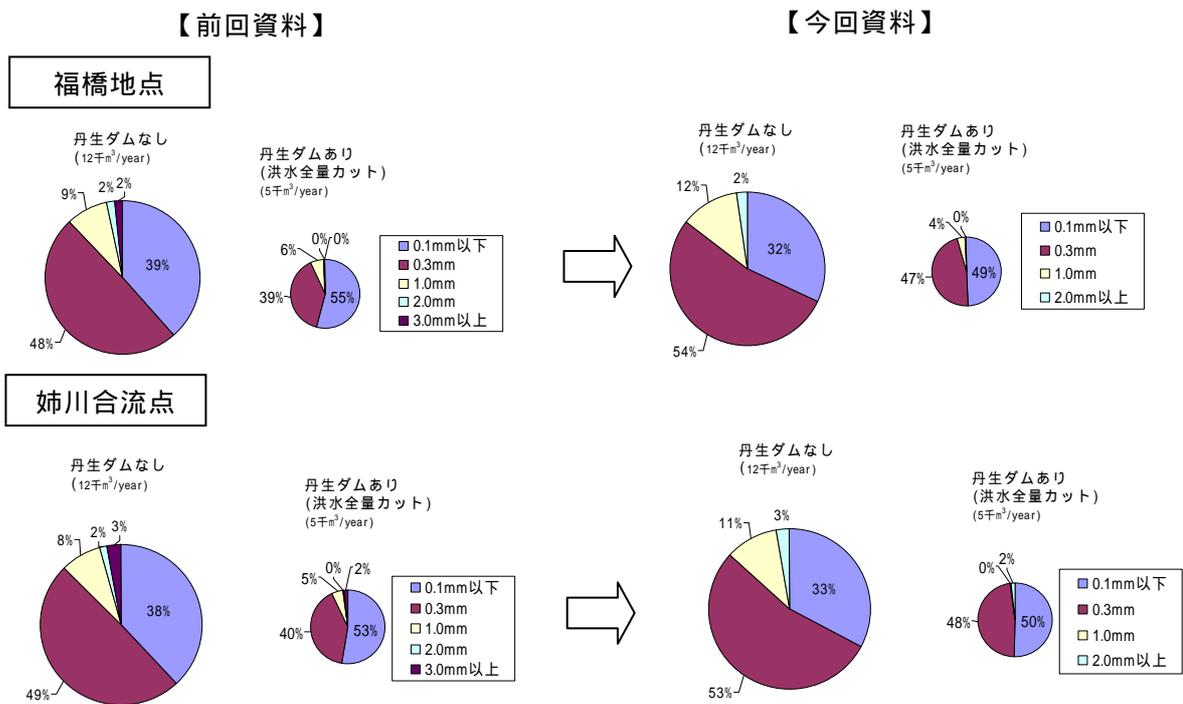


図-4 中小出水時における通過土砂量の粒径構成比 (体積比)

3) 大規模出水時の土砂移動

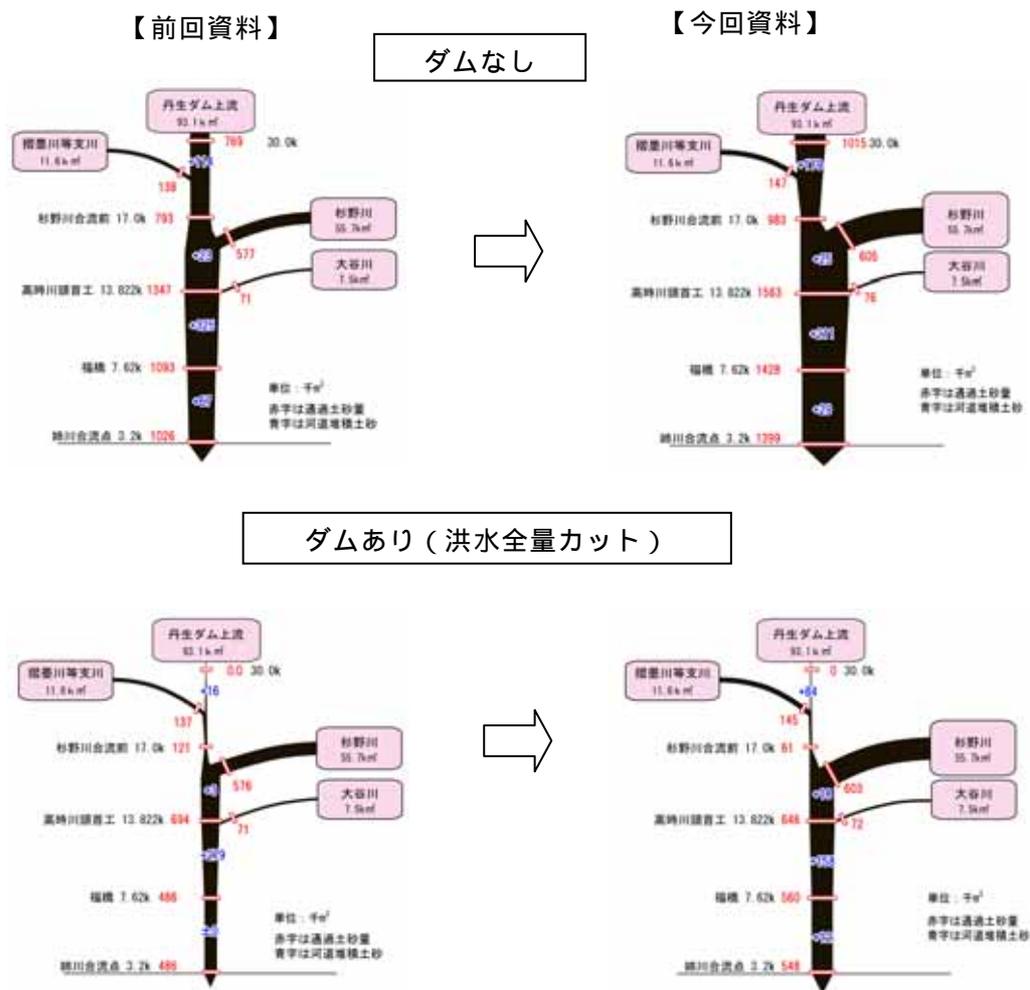


図-5 大規模出水時における土砂動態マップの比較（全流砂）